サロン

第7回高圧バイオサイエンスおよび バイオテクノロジーに関する 国際会議 (HPBB2012) 報告

Report on the 7th International Conference on High Pressure Bioscience and Biotechnology

松木 均

Hitoshi MATSUKI

高圧バイオサイエンスおよびバイオテクノロジーに関する国際会議 (HPBB) は、生化学、生物物理学、微生物学、海洋生物学、食品科学などを包含したバイオサイエンスおよびバイオテクノロジー分野における圧力を利用した基礎研究および応用研究に関して、産学の垣根を超えて討議することを目的に 2000 年度より世界各国で隔年毎に行われている国際会議である。第7回の会議 (HPBB2012) は、2012 年 10 月 29 日から 11 月 2 日の日程で天津市、琵琶湖畔にあるピアザ淡海 (滋賀県立県民交流センター) において開催された。第4回の会議 (HPBB2006) がつくばで開催されており、6 年ぶりに再度、日本での開催となった。世界各国からの会議への総参加者数は約 130 名弱であった。実行委員長である近畿大学の赤坂一之教授の挨拶と基調講演により会議が開始され、会期間中、口頭 59 件 (招待講演 11 件を含む) およびポスター 52 件の総計 111 件の研究成果の発表が行われた (Fig. 1)。

今回の会議の特色は様々な新しい取り組みが実施されたことである。第一には、これまでの会議においてなされてきた生体分子への圧力効果を中心とした基礎研究から微生物や食品への圧力を利用した応用研究へといった講演の流れを変え、基礎研究と応用研究が関連する主題のもと、混在するような形式で講演を進めるように試みた。会議のセッションを以下に示す。

- (1) Basics of pressure effects on bio-macromolecules
- (2) Pressure-induced transition and functionality
- (3) Pressure adaptation

- (4) High pressure food processing and safety
 - (5) Pressure effects on macromolecular assembly
 - (6) Session for students and young researchers
- 生体高分子 (タンパク質) への圧力効果、圧力を用いた機能性食品、微生物への圧力環境適応、加圧食品加工とその安全性、生体内集合系への圧力効果と講演が続き、各セッションにおいて活発な討議が行われた。第二には、これまでは口頭発表とポスター発表は各々別個の時間帯に行われていたが、口頭発表に関連した研究のポスターを集め、ポスター発表を口頭発表間の休憩 (コーヒープレーク) 時間に組み入れたことである。これら 2 つの大きな変更により、基礎の高圧研究者と応用の高圧研究者間のより密な交流が可能となった。さらに第三には、今回初の試みとして会議最終日に若手研究者・学生のみで構成されるセッションを設けて、若手の発表の場を設けたことである。発表者は、事前に一生懸命に練

Fig. 1. A large conference room of Piazza Ohmi.

〒770-8506 徳島市南常三島町 2-1 徳島大学大学院 ソシオテクノサイエンス研究部
Institute of Technology and Science, The University of Tokushima, 2-1 Minamijosanjima-cho, Tokushima 770-8506
Electronic address: matsuki@bio.tokushima-u.ac.jp

習してきた成果を堂々と発表しており、そこでの経験は各自にとって大変自信になったことと思う。なお、優秀な若手発表者には賞が与えられた。

会議第3日目の午後は、エクスカージョンとして京都東山地区へ出掛けた。皆で清水寺を参拝した後は自由時間となり、二年坂、三年坂に沢山立ち並ぶお土産物屋やお茶処を各人で散策して楽しんだ。その後、大津に戻り、懇親会がびわこ温泉「ホテル紅葉」にて開催された。懇親会前に希望者は琵琶湖が一望のもとに見渡せる温泉にゆっくりと浸かり、懇親会ではホテル自慢の懐石料理を十分に堪能することができた。また、アトラクションとして著名な尺八奏者による尺八の荘厳且つユーモラスな演奏および京都府立大のフラダンスチームによる華麗なフラダンスショーが催された (Fig. 2)。参加者も一緒にフラダンスを踊って興じた後には、日本の伝統文化であるカラオケが登場し、日本人と外国人が入り交じり大変に盛り上った。数日間におよぶ会議における勉強の疲れが一気に吹き飛ぶ非常に楽しい時間であった。

今回の会議開催に当たっては、多くの新しい試みを導入した関係上、特に主題の選定に時間が取られ、開始のアナウンスが遅れてしまうなど不備な点も多々あったが、無事に会議を開催し、且つ盛会裡に終了できたのは、実行委員会委員の献身的な努力の賜

Fig. 2. One of attractions (hula-dance) in the conference banquet.

物であったと感謝している。また、会議の前日 (10月28日) には高圧生物関連研究の社会への啓蒙を目的として一般市民を対象とした公開講演会を同会場で開催し、こちらも多数の参加者があり、会議と共に盛会であったことを付記しておく。最後に高圧力学会には、本会議を学会の共催事業として認可していただき、共催金をいただいた。この場をお借りして深くお礼を申し上げたい。次の第8回は二年後の2014年にフランス西部の町ナントでの開催が決まった。加圧食品とワインが味わえる次回も楽しみである。

Fig. 3. Group photo of participants at the shore of Lake Biwa.